

令和 8 年 8 月吉日

肥大型心筋症患者における予後の性差に関する研究成果が

学術誌に掲載されました。

肥大型心筋症患者における男女差と長期予後に関する研究成果が、Journal of the American Heart Association (JAHA) に掲載されました。本研究では、全国 23 施設が参加する REVEAL-HCM 研究のデータを用い、女性患者で予後が悪いと報告されている背景について体系的に検討しました。

【患者さん・社会への貢献のポイント】

本研究は、肥大型心筋症の患者さん、特に女性の患者さんに関わる研究です。女性では診断が遅れる可能性があることや、男女共通の診断基準では体格の小さい女性が診断されにくい可能性が示されました。性別や体格の違いに配慮した診断の検討、健診受診の促進などを通じて、女性の患者さんの生命予後の改善につながることが期待されます。

【発表のポイント】

- 肥大型心筋症で女性の方が生命予後が悪いと報告されている背景を、大規模データを用いて調査しました。
- 女性の診断の遅れ、男女で画一的な診断基準、病変の形態的特徴の違いが影響していることが示されました。
- 女性に配慮した診断や、健診受診を促進する社会的取り組みの重要性が示されました。

【研究の背景】

肥大型心筋症は、突然死や心不全の原因となる遺伝性心疾患です。近年、女性の患者さんは男性より予後が悪いことが報告されていますが、その理由は十分に分かっていませんでした。

【研究の手法】

全国 23 施設が参加する REVEAL-HCM 研究に登録された 3,247 名の肥大型心筋症患者を対象に、男女の臨床像や長期予後を比較しました。年齢、症状、心エコー所見、合併症、治療内容などを解析し、男女差の背景を詳細に検証しました。

【研究の結果】

女性は男性より高齢で診断され、心不全症状が多く、心血管死亡や心不全発症が多いことが

分かりました。また、体格を考慮すると女性では心筋肥厚がより高度であり、現在の診断基準や健診受診率といった社会的な男女差が、女性の診断を遅らせる要因となっている可能性が示されました。

【今後の展開】

本研究は、肥大型心筋症における男女差を日本全国規模で明らかにした研究です。今後、性別を考慮した診断基準や早期診断戦略の検討につながることで、患者さんの予後改善に貢献することが期待されます。

【筆頭著者コメント】

本研究が、女性の患者さんをより早く診断し、適切な治療を提供できる医療体制の構築に寄与することを期待しています。(中村 雅之)

【論文情報】

掲載誌：Journal of the American Heart Association (JAHA)

論文タイトル：Sex Differences in Clinical Characteristics and Long-Term Outcomes in Patients With Hypertrophic Cardiomyopathy: Insights From the REVEAL-HCM Study

DOI：10.1161/JAHA.125.046708

掲載年月日：2026 年 6 月 23 日

【用語解説】

肥大型心筋症…心臓の筋肉が厚くなる遺伝性心疾患で、心不全や不整脈、突然死の原因となる疾患です。

心血管死亡…心臓や血管が原因となった死亡を指します。

【研究内容に関するお問い合わせ先】

独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター 循環器内科 中村 雅之

E-mail：nakamura.masayuki.uk@mail.hosp.go.jp

【取材にお問い合わせ先】

独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター 広報企画室

E-mail：onh_pr@kamibu.co.jp

TEL：06-6942-1331